

きれいな空気を取り戻すため
市民の自主的活動を援助する連絡機関

大気汚染測定運動東京連絡会

毎年6月と12月の2回、市民の手で都内1万数千カ所で二酸化窒素の一斉測定が行なわれている。大気汚染測定運動東京連絡会は、測定運動に参加する各地区実行委員会及び各種団体の自主的活動を援助する連絡機関として、約30年にわたり、きれいな空気を取り戻すため地道な活動を続けている。藤田敏夫会長に話を伺った。

(聞き手：田口明)

<プロフィール>

2年の準備期間を経て1978年5月に結成。毎年2回、6月と12月に約1万数千地点で全都一斉測定を実施。健康と環境を守り、大気汚染による健康被害を防ぐことを目的として、大気汚染測定運動に取り組んでいる。いままで約30万人の方々が関わってきた。現在、藤田敏夫氏が会長。



藤田敏夫会長

—人権賞の受賞、おめでとうございます。早速ですが、どのようなきっかけで大気の汚染状況を調べる運動がスタートしたのですか。

藤田：30年前、杉並区に住んでおりました際、環状七号線の沿道でぜんそくのお子さんが多いということを知りました。それじゃ調べてみようということになったのがきっかけです。原因は何かということで、環七沿道を含めて30カ所で大気の汚染を測ってみたところ、当時の環境基準の10倍くらいの値が何カ所か出てきました。これを朝日新聞が大きく取り上げてくれて、環七沿道の25団体の方々が集まって測定を行なうことになったのが始まりです。

—実際の測定は、どのような方々が、どのような方法で行なっているのですか。

藤田：当初は、婦人団体や労働組合などの方々が主でしたが、今では消費者運動を行なっている各種団体や環境問題に関心をもたれている小学校の先生からの申

込みもあり、幅広い方々がそれぞれの地域で自発的・自主的に測定に参加しています。

測定の方法も、親指大のカプセルを測定場所の門柱などにセロハンテープで付けるというだけで、とても簡単です。カプセルの中には薬品が塗ってあるろ紙が入っていて、二酸化窒素がたくさん付着すると発色液の色が濃くなるというものです。

したがって、われわれ東京連絡会は、自主的に測定を行なっているそれぞれの団体にカプセルを送ったり、分析したり、ニュースを出したりしてお手伝いをしています。また、測定の集計結果について報告会や研究会を開催するといった活動が中心となっています。

—測定運動は1978年から続いているということですが、長く続いている理由は何ですか。

藤田：自分が呼吸している空気が汚れているかどうかは人間が感覚でも少しはわかることです。汚れているかどうかを自分で科学的に調べてみたいという強い願

望が一番の基礎になっているのではないのでしょうか。特に交通量の多い幹線道路沿線の住民の方々は強く感じられています。

また、こういう運動はやれといってもダメで、各種団体が自発的・自主的に取り組んでいるからこそ続いているのだと思います。

—最近の測定で感じられたことはありますか。

藤田：お台場の33階建の公団住宅にお住まいの方から、空気が悪いらしいので測ってみたいとの電話があったときのことで。その方の話によると、その公団住宅では月1回空気を清浄化する通風孔のフィルターを交換しているが、そのフィルターを見せてもらったら真っ黒だったので調べてみたいということでした。それで、1階から33階まで3階毎にカプセルを取り付け、それを分析したところ、数値がほとんど変わらない。高いところに行けば数値が低くなるのが普通ではないかと思いますが、そうではないのです。東京都が東京タワーで地上1メートルと100メートルの地点で測定したデータを調べたら、同様の結果でした。いうなれば、東京は汚れた空気ですっぽり覆われているということです。これも朝日新聞で取り上げられたところ、自分のところも測定してみたいということで、東京連絡会の事務所の電話が鳴りっぱなしになったことがありました(笑)。

—ところで東京都では、2003年10月1日からディーゼルの排ガス規制を行っていますが、その効果についてはどのようにお考えですか。

藤田：私どもも関心をもって、この10月1日を境に、その前の15日間とその後の15日間を比較調査しました。確かに、風が弱い日には浮遊微粒子(SPM)が30%くらい減少していましたが、風の強い日はあまり数値の変化はありませんでした。

また、2003年12月4日、5日の2日間行なった第53回全都でのNO₂一斉測定の結果も前年とほとんど同じで、都が発表しているような画期的効果は確認できませんでした。

警視庁の交通統計をみると、最近、都内での大型ト



ラックの走行量が減っていることも事実ですので、排ガス規制の効果についてはもっと慎重に調べて、誇大宣伝にならないようにしてもらいたいと思います。

—行政でも大気汚染測定を行ったり、環境白書を作成するなどしていますが、市民が自ら測定などを行なう意味はどこにあるのですか。

藤田：自分の環境を守ることを人任せにしていたのでは限界があります。都や市区での測定はごく限られた地点でしかありません。大気の挙動は複雑ですから、ある地域内に多数のカプセルを設置して測定することで汚染の面的状況を知ることできるのです。これをもとに行政に対し環境の改善を求めていくことが必要です。

また、自分たちで測定し、空気の汚れを実際に知ることによって、自動車の利用の仕方、街の緑化運動への参加など自分のライフスタイルを考え直し、これを変えていくということも重要な意味を持っています。

—最後になりますが…。

藤田：今回、東京弁護士会の人権賞を受賞したことは我々にとって大きなはげみになりました。

—どうもありがとうございました。

(構成：田口明)